



2002-2003 年度のための

地区協議会 社会奉仕部門

2002 年 5 月 11 日(土) テクスピア大阪

小島ガバナー・エレクトの点鐘、開会の挨拶の後、地区協議会社会奉仕部門が始まりました。



しています。昨年までは全部門を 1 日で行ないました。1 日で開催する方法は、費用が高つくこと、ガバナー・エレクトが部門別懇談会の 1 部門しか出席できないこと(意思疎通が充分はかれないこと)などの問題がありました。

今回は部門別に開催し、皆さんと質疑応答などを交え、内容の濃い地区協になっています。皆さんの率直な意見をお聞かせいただき、意義のある協議会にしてください。

2.次年度の活動方針

D G E 小島 哲

1.挨拶・基調講演

P D G 水田 博史

地区協「社会奉仕」部門にご出席いただきありがとうございます。今日は前田ガバナーが急遽欠席することになりました。お許してください。



最近のロータリーはいろいろな面で複雑化しています。かなり簡素化しなければならないと思います。

当地区もいろいろと変わってきています。例えば、地区協議会を 8 部門(8 回)に分けて開催



(自己紹介)

昭和 8 年 12 月 11 日生まれの 68 歳で、天皇陛下と同じ年です。大学を卒業後、しばらく飛行機会社に勤めました。その後、現在の丸菱油化という油剤工場の親父をしております。この不景気な時に、現役の中小企業の社長にガバナーをとというのは無茶な話ですが、引き受けることになりました。次年度 1 年よろしく願います。

国際協議会に出席して印象に残ったのは、次年度のラタクル R I 会長のお話でした。その内

容は素晴らしく、資料の 6 ページ以下に載せてあります。また、クラブにお配りしていますラタクルさんのビデオをクラブの皆様で是非ご覧いただきたいと思います。

ラタクルさんは「R I や理事会から目標などを出しません。クラブで自由に活動方針を立ててください。」と明言しています。「増強が大事だということは皆さんが良くご存知です。クラブによっては 1 名増強というところもあるでしょう。また、増強より退会防止に力を入れるところもあるでしょう。親睦活動に重点をおくところもあるでしょう。各クラブでそれぞれの目標を考えてください。」と話されています。逆にいいますと、我々は大きな責任を抱え込むことになります。この辺をうまく考えていただいて、ラタクルさんの方針を解釈してください。

ラタクルさんが目標を立てるときに考えいただきたいという大事な項目が 4 つあります。

会員増強。平均年齢を若返らすという意味でも増強が必要です。

識字率の問題。識字率向上のために協力をお願いします。

ポリオ撲滅（ロータリーの 100 周年記念事業です）。資金援助の協力をお願いしたい。

職業奉仕。職業分類を見直して欲しい。新しい職業の方を会員として迎えて欲しい。

前窪 D G N の年度がロータリーの 100 周年になります。100 周年を祝って、各クラブで記念行事を、特に社会奉仕の面で、有意義な活動を考えてください。

各クラブの社会奉仕活動は「意義ある業績賞」という形でご報告いただいて、R I に申請します。意義ある業績賞については、資料の 15 ページ以下に載せてあります。次年度は各クラブから 1 件ずつ申請していただきたいと強くお願いします。

2640 地区の社会奉仕活動の方針は、ラタクルさんの方針と同じく、各クラブで考え活動していただきます。地区の社会奉仕委員会はなにも

企画・提案しません。皆様方のプロジェクトがスムーズに動くように、またプロジェクトの紹介をするなどのお手伝いするだけです。

地区の委員会では、各クラブでされている様々な社会奉仕活動を他のクラブの皆様にもお知らせし、クラブの奉仕活動の参考にできないかと考えています。地区の委員会は、様々な奉仕活動の情報を提供したいと思います。その奉仕活動に賛同していただけるクラブがありましたら、お手伝いいたします。

社会奉仕は地域に密接した活動であります。是非各クラブで独自のプロジェクトを計画いただき、活動をお願いします。

地区では、識字率向上のための活動をどういう形で皆様をお願いし、その結果をどういう形で皆様にご報告できるかを考えております。

昨年まで識字率向上運動のために、古切手や書き損じはがき、使用済みのテレホンカードなどを集めて、ユネスコなどに届けていたこと、また各クラブでいくら集まったか、そしてその先どうなったかなどはご存知でしょうか。実のところ私も知りませんでした。自分たちが集めた資金がどうなったかをクラブの皆さんに知ってもらわないと意味がありません。なんとなくお金を出しただけで終わっているというのが一番拙いと思います。

財団および米山の奨学生、G S E、交換学生などは地区で行ないませんが、皆さんの主体性のある協力をお願いします。地区から頼まれたから、仕方なしには意味がありません。

2640 地区は外から見ると、活動の活発な優れた良い地区と評価を受けています。特に財団部門では飛び抜けています。しかし、当地区の会員の皆さんがそのような認識とプライドを持っているかということ、私は首を傾げたくります。地区が勝手にしているという認識で、幾ばくかの資金協力をして、それで事足りているというのが現状だろうと思います。最近このような傾向になっていることを危惧しております。

ラタクルさんはロータリーの入会した当時、自称完璧な会員だったそうです。完璧な会員とは例会 100%出席、会費はきちり完納ということでした。奉仕活動は一切しなかったそうです。しかし、あるときどうしても断りきれなくて母子家庭の子どもを泳ぎに連れて行くというプロジェクトに渋々参加しました。一日が早く終わらないかとばかり考えていましたが、何か引っかかる男の子がいました。その子どもを見ているうちに考えが変わり、その子と積極的にかかわるようにしました。一日が終わり、子どもを家に送っていったとき、その子がふっと言った「あなたが私のお父さんだったら・・・」という言葉がその後のロータリーでの態度を変えました。それ以来私はロータリアンになりました。

社会奉仕について、自分自身が直接タッチし、労力奉仕、時間奉仕で地元と密接な関係を持たれることも大事なことだと思います。各クラブで立派な奉仕活動を行っていますが、奉仕活動の結果がどういう反響になって返ってきているのかも知って欲しい。その結果、奉仕活動をやってよかったと感じ、ますます活動に励むようになっていただかないと甲斐がありません。

次年度から地区のガバナー月信は会員の皆さんに配布しません。地区のホームページに掲載します。地区から皆さんへの情報伝達方法を暗中模索していますが、一度ホームページという方法でやってみます。ガバナー月信を14回印刷して、約3,300人に会員に配布し、約1,000万円かかります。地区分担金が14,000円/人ですので、地区の予算約4,500万円の内、1,000万円ほどが月信に費やされています。ホームページに掲載すると、150万円程度で済むと考えています。約850万円が節約できます。しかし、当地区で最も多かったときの会員数は約3,900人でしたが、今は3,300人弱です。差し引き600~650人減っています。ざっと900万円ほど地区分担金が減った勘定になります。

本来、ガバナー月信は会長・幹事宛のもので、

昔は一般会員に配布する分には「copy」と記していました。会長・幹事さんには是非読んでいただきたい。その中で必要なものは例会でロータリー情報として、会員の皆様に伝えていただきたい。

ポリオは2005年に撲滅すると約束して始めたプロジェクトです。来年の9月頃までに発生件数をゼロにし、その後1年ほど発生がないことを確認しなければなりません。そのためには資金が約4億ドル足りませんでした。最新の情報では、2億7500万ドル程度不足ということです。これを全世界の会員で負担すると1人当たり45ドルとなりますが、日本の会員は倍の90ドルを期待されています。当地区では毎年1人当たり220ドルの寄付をいただいております。次年度は、その内の90~100ドルをポリオの用途指定寄付にお願いしております。その結果、一般寄付が130ドルに減ります(3年先の財団奨学生数が20人13人に減ります)。今ここでポリオへの支援を止めてしまうと、元の木阿弥になりますので、なんとか完結したいと思っています。

3.地域社会に密接した奉仕活動

PDG 水田 博史



社会奉仕に限らず、地域に密着した奉仕活動をしていただきたい。それが、ロータリーのイメージを高めるとともに、地域の人々のためにもなります。地域の人々に理解が深まれば、会

員増強にもつながると思います。

ロータリーの本当の活動は、会員一人一人の活動であり、クラブの活動です。R Iでも理事でも地区でもありません。このことを念頭に社会奉仕活動に励んでください。

次年度はクラブが主体に活動する委員会、地区が主導する委員会と明確に区分されます。四大奉仕部門はクラブが主導の活動です。社会奉仕委員会は委員長1人と環境保全担当の委員が1人の2人です。これは、社会奉仕はクラブが主体の活動ですので、地区での活動はあまりないという考えからです。

地域の人と密接に連携をとりながら、何が地域で望まれているのか、何が我々に出来るかを考えていただき、是非クラブ主体で活動を進めていただきたい。

次年度は新しいプロジェクト、新しい奉仕活動を最低一つ取り組んでいただきたい。そして意義ある業績賞にドンドン応募してください。

地区ではいろいろな相談を受け、皆さんに協力もさせていただきますが、とくに各クラブの活動の情報交換を進めたいと考えています。そして、その情報をヒントに新しい活動を見出していきたい。

クラブ主体の活動とはいうものの、全体で実施するのが効果的な活動もあります。例えば従来からの識字教育の向上運動です。これは強制ではありませんが例年どおりのご協力をお願いします。

ロータリーでは7月が識字率向上月間になっています。なぜ識字率向上が必要なのでしょうか。識字率向上運動は日本では馴染まない活動ですが、世界の状況を考えるとまだまだ必要な運動です。この根底には人口問題があります。人口問題は21世紀の重要問題です。20世紀の初頭に16億人であった人口が、現在では63億人を越えました。このままで増加すると、2050年には93億人に達するといわれています。現在の63億人の内、半分の人は1日2ドル以下で生

活をしている貧困層です。世界人口の20%の富める人々が世界の個人消費の86%を占めるのに対し、20%の貧しい人々の個人消費は僅か1.3%にしかすぎません。

人口の増加問題については、教育が人口問題を解決する核心であるといわれています。とくに婦人と少女に対する教育の必要が叫ばれています。(世界で非識字者は約8億8千万人います。その2/3は女性といわれています。)女性の識字率の向上により、子供たちに読み書きを教えることができれば、非識字者の増加が防げるであろうと考えられます。これらのことが人口増加を低減できるであろうともいわれています。

7月の識字率向上月間では、各クラブで色々なことを考え、活動してください。今年も書き損じはがきや未使用のテレホンカードを集めていただくこととなりますが、活動される時はクラブのメンバーだけではなく、地域にひろげていただきたい。例えば、学校や町会、婦人会等に識字率向上運動の必要性を訴え、協力をお願いしてください。こういうことから地域との密着性が生まれ、ロータリーの認識が高まると思います。識字率に関する資料はガバナー事務所までお問い合わせください。

社会奉仕は物質的な援助より、心の援助がロータリーとしてかなった奉仕であると思います。例えば、盲人協会に白い杖を寄贈することも大切なことですが、交差点で盲人の方に手をさしのべることが望まれています。また、知的障害者の施設に何か寄贈を申し入れたところ、課外授業の時の人的援助をお願いされたという話もありました。こういうのがロータリーの奉仕活動ではないかと思います。物質的な援助がダメだということではありませんので、効果的な援助は大いにやってください。ロータリーの理念からの奉仕活動といえ、心の援助ということをご承知ください。

(参考資料の請求先)

・ロータリー公式資料「識字率を高めるロータ

リー」資料番号 601-J A-(197)

R I 日本事務局資料室

・ レポート 2001(ユネスコの報告と事業)

ユネスコ事務局 (.03-5424-1121)

4.新世代活動について

PDG 楠 公延



本年度に続き、小島年度の新世代部門のカウンセラーをすることになりました。よろしくお願ひします。

去る 4 月 27 日～29 日に、淡輪でライラを開催させていただきました。青少年ライラ活動委員会とホストの皆様のおかげで、成功裡に終わりました。参加された会員の皆様、関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。また、小島年度もライラを開催させていただきます。本日ご出席の皆様とは、次年度のライラでお会いできます様、よろしくお願ひします。

私は永年インター・アクトに関係しております。最近ちょっと嬉しい話が 2 つありました。

インターアクターの卒業生から、初めてロータリアンが誕生したことです。河内長野 RC の会員になっております。

平岡 PDG から伺った話ですが、今年の東京大学法学部をトップの成績で卒業したのは、当 2640 地区のインターアクター出身者です。就職先は、最近ちょっと気になる外務省だそうです。青少年活動を永年しておりますと、世界の田舎の地区でも、このような楽しみがあります。皆

様も青少年奉仕、新世代奉仕に関心を持っていただきたいと思います。

小島エレクトの話の中にもありましたが、ラタクル R I 会長エレクトのお話は涙が出るくらい感動しました。R I 会長は世界でも有数の素晴らしいロータリアンが就任されますが、最近の会長さんは私とぴったりとした所がありませんでした。私が先輩諸氏より教わったロータリーの考えから乖離していくように感じておりました。ラタクル次期会長の話に感動し、また羨ましいと思ひました。ロータリーもやっと本来の姿に戻って行くのではないかと大いに期待しております。

今日の資料の中に、R I 会長の経歴等が載っております。お帰りになったらじっくりお読みください。次期 R I 会長をこしらえたのは、「あなたが私のお父さんだったら良いのに」という一人の少年の言葉でした。また、奉仕のチャンスを与えたクラブ会長の熱意が R I 会長を作ったのです。皆様の役目も社会奉仕委員長として、社会奉仕や青少年奉仕のチャンスを会員の皆様に与え、立派なロータリアンを作ることです。ラタクルさんも、避けていた青少年奉仕に出てみて素晴らしい感動があつて、R I 会長エレクトまでになられたのです。皆様のクラブにもきっとそういう方が居られるでしょうから、そういうチャンスを与えていただくこと、青少年奉仕に呼び出していただくことが社会奉仕委員長さんのお仕事です。

インター・アクト、ローター・アクトは、我々の例会での自己研鑽を青少年の皆さんにも与えようと発足したものであります。そのためにもクラブの例会を充実してください。地域の青少年奉仕とロータリーの青少年奉仕とどこが違うのか、そのへんの所を考えていただきたい。ロータリーの青少年奉仕はロータリアンが青少年と共に行動することにあります。ラタクルさんも共に行動したから感動が得られ、R I 会長エレクトまでなられました。共に行動しなければ、

ロータリーの青少年奉仕にならないと思います。共に行動しながら、ロータリアンが子供から自己研鑽を得られることが、ロータリーの青少年奉仕です。とにかく参加していただくことが、ロータリーの青少年奉仕と他の地域の青少年奉仕と違うところです。

5. 地区運営の指針としての

クラブ主導と地区主導

PDG（研修リーダー） 中村 幸吉
今日今までに受けた話が3つあります。

冒頭の水田直前ガバナーが「2度とガバナーはやりたくない」と言った話。

楠PDGも少しふれましたが、ラタクルRI会長エレクトと少年の話です。この話は全世界のガバナー・エレクトが集まる国際協議会の冒頭演説の中の話です。会長部門の資料に載っていますので、詳細はそちらをお読みください。

楠PDGの話の中で、インター・アクトの卒業生が東大の法学部を1番で卒業し、外務省に就職したことでした。



社会奉仕活動の理論として、新しい手続要覧の77ページからの「決議 23-34」を社会奉仕委員長として、再読していただきたい。その中の「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、・・・」は、ロータリーはそこで色々なことを学ぶ場と考えてください。また、「各ロータリークラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に

に選ぶことについて絶対的な権利を持っている。」というきつい表現がありますが、これはクラブそのものの権利です。国際ロータリーといえども、奉仕活動に有益な示唆を与えることは出来ても、クラブの社会奉仕活動を命じたり、禁じたりすることは出来ません。このことが、社会奉仕については、クラブ主導型にしてくださいとエレクトが主張していることです。

本来的に、社会奉仕活動はクラブ主導で行なうものです。このことを次年度は意識して活動をお願いします。

1994-95年度の地区大会に講演に来られた今井鎮雄氏の「ロータリーはこれでよいのか」を一度お読みください(クラブの事務局にあると思います)。その中で、人と人との心が通い合う共同社会、人の温もりのある社会が意義ある地域社会であると述べています。

最近では識字率向上運動という言葉でなく、識字運動という呼び名になっています。識字運動は、大義名分つまり目標がはっきりしています。クラブ主導にかかわらず、次年度も識字運動を取り上げていただきたい。識字運動にもお金がかかりますが、寄付をするだけでは運動そのものの価値がなくなります。その活動を地域に広げていただきたい。識字運動を道具にして、地域との交流を進めてください。これが社会奉仕、コミュニティサービスです。

6. 次年度の計画発表

社会奉仕委員会

社会奉仕委員長 星野 映子

資料にも書かせていただきましたが、ロータリーを100倍楽しもう。ロータリーを勉強してください。もっとロータリーが楽しくなります。

私も5年前にクラブの社会奉仕委員長になり、地区協に出席しましたが、あまり面白くありませんでした。社会奉仕の概念の決議 23-34 も一人歩きしているように感じました。

決議 23-34 については、Rotary Japan

Web を見るなどして、皆さんで勉強してください。



私はこの6月に行なわれるサッカーのワールドカップに興味がありません。何故かというルールがわからないからです。ロータリーモジュールがわからないと面白くありません。是非勉強してください。そうすると、決議23-34がどうして決められたか、何故社会奉仕のバイブルと言われるのかなどが、解ると思います。社会奉仕についても、いろいろ素晴らしい話が載っています。7月27日に社会奉仕委員長会議を開催しますので、その時まで是非勉強しておいて下さい。

識字運動は次年度1年間必ず実施したいと思っています。これもインターネットのユネスコのページで資料等が得られますので、勉強してください。各クラブとも最低限識字運動だけはお願いします。余裕のあるクラブは、盲導犬のケア、献血、薬物乱用なども検討してください。

各クラブにアンケートをお願いします。各クラブの自慢社会奉仕プロジェクトや地区の社会奉仕委員会に望むことなどを6月末までに、ガバナー・エレクト事務所までメールをお願いします。それをもとに、7月27日の社会奉仕委員長会議で紹介したいプロジェクトを整理したいと考えています。また、当日はクラブ主導という観点から、各クラブの委員長さんに発表していただきます。

インター・アクト委員会

インター・アクト委員長 橋本 健介

当地区の現況は、75クラブ中、提唱クラブが11です。昨年3クラブ増えました。

インター・アクトがよく判らないという声がありますが、原因の1つは提唱クラブが少ないことです。もう1つは顧問校というのがあり、そこにすべてを任していることです。クラブが資金を提供するだけで、顧問校が勝手に活動しているということが多々見られます。

インター・アクトクラブを作りたい学校はあるが、昨今の経済事情から提唱クラブの引き受けてがないのが現状です。提唱クラブには地区からいくらかの援助を考えていますが、是非提唱クラブに手を挙げてください。

次年度は、どんな活動をしているかということ、各クラブにメールでお知らせしますので、興味のあるかたは是非ご参加ください。

提唱クラブの会員の出席も少ないので、是非11クラブの社会奉仕委員長さんは地区の活動には数名の参加をお願いします。今までは登録料が1万円でしたが、次年度から3,000~5,000円にしますので、大勢参加してください。



地区の活動はもちろん各学校の活動報告もしたいと思っていますので、提唱クラブは勿論、他のクラブの方も、青少年の育成は大切なことですので、どういうことをやっているのかを、よく知っていただきたい。

行事項目は今年と同じですが、次年度は中身

を大きく変えようと考えています。

インター・アクトクラブは関心が薄いので、資料は提供しますので、興味を持っていただくようにお願いします。

ローター・アクト委員会

ローター・アクト委員長 小西 市朗

今年度に続き、次年度もローター・アクト委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

地区には 12 の R A C (ローター・アクトクラブ)があり、75 クラブ中 14 のクラブが提唱クラブになっています。

次年度も今年度と同様な事業を計画しています。今年度はテロの関係で、海外研修が中止になりましたので、国内研修に変更する予定です。次年度も国内研修を組み入れたいと考えています。



次年度の海外研修は、今年度の内容をそのまま持ち越し、台湾で先方のローター・アクトと共同事業を考えています。今までのように、向こうに行って物見遊山で帰ってくるのではなく、研修・勉強を取り入れた海外研修を考えています。

今年の 3 月に、ローター・アクト、インター・アクト、ROTEX、米山学友が集まって「新世代会議」を開催し、意見の交換を行ないました。これが非常に好評で、次年度も引き続き開催したいと思っています。

次年度は、例会を充実するために、理事会の充実を目標とします。新しい人たちにも、楽しんでもらえる例会を作っていこうと考えています。

社会奉仕については、数ヶ月をかけて打合せや準備をするような事業を各クラブに考えてもらうように要請しています。アクトにとっては大きな事業となるような活動をお願いしています。

2004 年の大阪国際大会では、ローター・アクトも世界大会を開催せねばなりません。2660 地区だけでは出来ないので、2640、2650、2680 の 4 地区合同で開催します。そのためにも、アクトの会員を増やしていきたいのですが、30 才という定年がありますので、現在約 150 名の会員がいますが、今年度末には 130 名程度に減ります。これで行きますと、各クラブ平均 10 名程度になりますので、1 クラブ当たり、20 名の 240 名程度の会員数を目標に増強したいと思っています。

提唱クラブ以外の会員の皆様にもアクト会員増強にご尽力、ご協力をお願いします。ロータリーの中に、ローター・アクトがあるという意識を持っていただき、2640 地区全体でローター・アクトを支えていくということをお願いしたいと思います。

青少年ライラ活動委員会

青少年ライラ活動委員長 角谷 浩二



本年度のライラセミナーのお礼と報告

4月27日～29日に第21回ライラセミナーを開催しました。登録者数208名、内研修生は93名でした。皆様にご協力いただきありがとうございます。とくに、ホストのIM8組の皆様には多大なるご協力をいただきました。

次年度の活動については、7月20日にクラブ青少年ライラ活動委員長会議を開催し、そこで説明させていただきます。各クラブの青少年ライラ活動委員長様に必ずご出席いただけますようお願いください。

当委員会の活動には2つの柱があります。

(1) 青少年活動

次年度も新世代会議の開催を進めてまいります。

当地区新世代会議の定義

当地区の新世代会議は、青少年との対話と交流の場と定義。例えば、清掃活動に青少年を招き、一緒に清掃活動をし、そのあとで対話をしていただければ結構です。

地区として、新世代会議は開催しません。クラブで新世代会議を開催してください。数クラブが合同で開催していただいても構いません。

新世代会議を開催する場合

ガバナー事務所まで連絡と報告をお願いします。地区のホームページに掲載します。

優秀な会議は地区大会においてガバナー特別表彰を行いません。

会議の内容を検討し、補助金の対象となるものには、地区より補助金を出します。

(2) ライラセミナー

開催日は来年の5月3日(土)～5日(月)、場所は大阪府立青少年海洋センター。

お世話いただくIMは、IM4組です。次年度ご協力をよろしく申し上げます。次年度のテーマは、職業奉仕委員会と話をして、職業奉仕を題材としたものを考えています。

あと半月ほどすれば、今年の研修生の写真と修了書が届くと思いますので、クラブ会長の署名を添えて、研修生にお渡しください。

今年の反省点としては、海外留学生(青少年交換学生)の問題があります。言葉がよく解らないことから勝手な行動を取ったことがありました。言葉の理解できない人の参加を次年度は検討したいと思います。

締め切り厳守のお願い

例年3月末に締め切りますが、締め切り後多数の登録がございます。保険の件、部屋割り他の問題から、締め切りは守っていただけますようお願いいたします。

この後、活発な質疑応答があり、最後に水田直前ガバナーに講評をいただき、終了しました。